

GENELEC®

8030C



オペレーティングマニュアル

概要

バイアンプの Genelec 8030C は、小型ながら高出力、少ない色付け、幅広い帯域幅を提供する 2 ウェイのアクティブモニタリングラウドスピーカーです。

8030C は、ニアフィールドでのモニタリング、中継室、放送局のコントロールルーム、サラウンドサウンドシステム、ホームスタジオ、マルチメディア用途向け、およびコンピューターのサウンドカードを用いた用途に最適です。アクティブスピーカーで、ドライバー、パワーアンプ、アクティブクロスオーバーフィルター、保護回路を内蔵しています。MDE™ (Minimum Diffraction Enclosure™) エンクロージャはダイキャストアルミ製で、エッジの回折を低減する形状となっています。先進的な DCW™ (Directivity Control Waveguide™) と組み合わせることにより、このデザインは、難しい音響環境においても優れた周波数バランスを提供します。必要に応じて、適切な Genelec サブウーファーを用いて 8030C の低域のレスポンスを拡張できます。

ラウドスピーカーの配置

8030C モニターには、内蔵アンプユニット、メイン電源ケーブル x 1、およびオペレーティングマニュアルが付属しています。パッケージを開封したら、音響上の軸に配慮してスピーカーを所要のリスニング位置に配置します。全てのスピーカーの軸がリスニング位置の耳の高さに並ぶように配置してください (図 1 参照)。

接続

まずオーディオ信号ケーブルを接続し、それが完了してから電源ケーブルを接続します。スピーカーをアースのないコンセントに接続したり、アースのない電源ケーブルを使用したりしないでください。

8030C

Active Monitoring System

オーディオ入力には [INPUT] と記載された 10 kΩ バランスメス XLR コネクター経由です。アンバランスのソースは、ピン 3 がピン 1 にアンバランスソースコネクタで接地されていれば使用できます (図 2 参照)。

接続が完了したら、スピーカーの電源をオンにすることができます。

ISS™自動スタート機能

自動省電力機能 ISS (Intelligent Signal Sensing) は、背面パネルの [ISS] スイッチを [ON] に設定することで有効にできます。再生が終了して一定時間が経過すると、自動で電源がオフになりスタンバイモードに入ります。スタンバイモード時の電力消費量は通常 0.5 ワット未満です。再生はソースからの入力信号が検出されると自動的に再開されます。

自動電源オンにはわずかな遅延が生じます。ISS™機能が不要な場合、背面パネルの [ISS] スイッチを [OFF] に設定することで無効に切り替えることができます。この場合、モニターの電源のオン/オフは背面の電源スイッチで切り替えることができます。

感度調整

ラウドスピーカーの入力感度は、背面の感度コントロールを使用してオーディオ信号ソースの出力に合わせて調整できます。

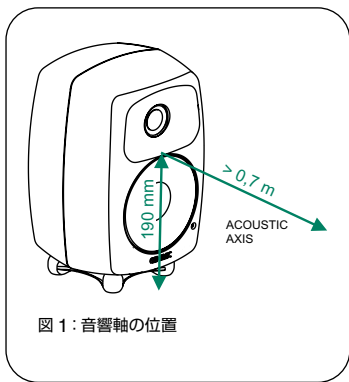


図 1: 音響軸の位置

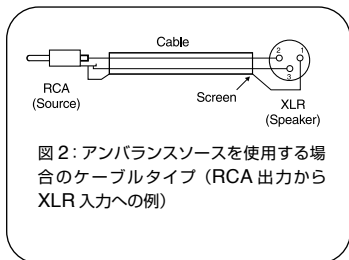


図 2: アンバランスソースを使用する場合のケーブルタイプ (RCA 出力から XLR 入力への例)

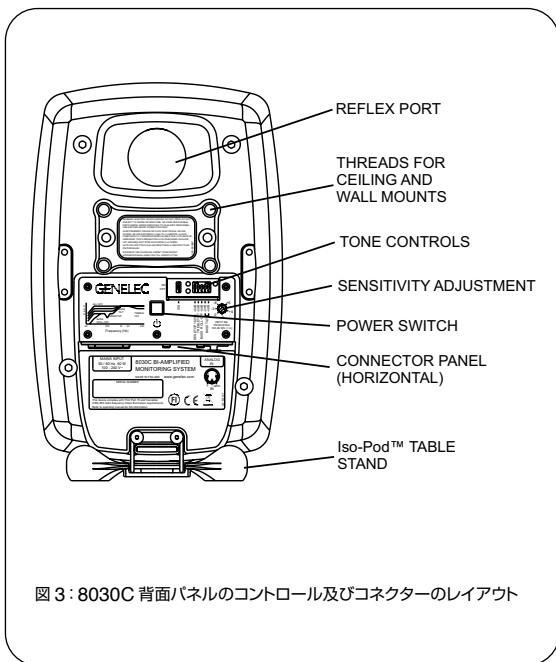


図 3: 8030C 背面パネルのコントロール及びコネクターのレイアウト

トーンコントロールの設定

8030C の周波数特性は、背面のトーンコントロールスイッチを設定することで音響環境に合わせて調整できます。コントロールには [Desktop]、[Treble Tilt]、[Bass Tilt]、[Bass Roll-Off] があります。調整の効果の分析には音響測定システムの使用をおすすめしますが、システムが使用できない場合は適切なテスト録音を使用した詳細なリスニングでも優れた結果をもたらすことができます。表 1 は、さまざまな状況での典型的な設定を示しています。図 4 は、無響へのコントロールの効果を示しています。

デスクトップ

デスクトップ低周波コントロール (スイッチ 1) は、160 Hz 付近の低周波を 4 dB 単位で減衰します。この機能は、メーターブリッジ、テーブル、その他の反響面上にラウドスピーカーが配置されている場合のこの周波数帯域のブーストを補正するようデザインされています。

トレブルチルト

[Treble Tilt] コントロール (スイッチ 2) は、4 kHz を上回る高域レスポンスを 2 dB 単位で減衰します。過剰に明るいサウンドのシステムをスムーズにするのに使用できます。

ベースロールオフ

[Bass Roll-Off] (スイッチ 3) は -4 dB フィルターを超低周波数帯域 (55 Hz) に適用します。これは、ラウドスピーカーが部屋の境界に配置されている場合に典型的な、過剰にヘビーな低域再現を補正するのに使用できます。

ベースチルト

[Bass Tilt] は 2 kHz を下回る低域レスポンスに 3 種類の減衰レベルを提供します。通常、ラウドスピーカーが部屋の境界付近に設定されている場合に必要となります。減衰レベルは -2 dB (スイッチ 4 を [ON] にする)、-4 dB (スイッチ 5 を [ON] にする)、-6 dB (両方のスイッチをオンにする) です。

モニター取付位置	デスクトップ	トレブルチルト	ベースチルト	ベースロールオフ
フラットな無響レスポンス	OFF	OFF	OFF	OFF
湿度の高い室内で自立	OFF	OFF	OFF	OFF
反響する室内で自立	OFF	OFF	-2 dB	OFF
ニアフィールドまたはコンソールブリッジ	ON	OFF	OFF	OFF
壁際	OFF	OFF	-4 dB	OFF
デスク上	ON	OFF	-2 dB	OFF

表 1：さまざまな音響環境に対して推奨されるトーンコントロール設定

全てのトーンコントロールのファクトリー設定は [OFF] で、フラットな無響レスポンスを提供します。調整は、必ず全てのスイッチを [OFF] 位置に設定してから開始します。設定のさまざまな組み合わせを体系的に計測または試聴して最適な周波数バランスを探します。

取付についての検討事項

ラウドスピーカーを正しく配置する

ラウドスピーカーは音響上の軸 (図 1 参照) がリスニング位置を向くように配置してください。クロスオーバー周波数周辺のキャンセレーションの問題を最小限に抑えるため、縦向きでを使用することをおすすめします。

対称に配置する

ラウドスピーカーがリスニング位置から同じ距離に対称に配置されていることを確認してください。可能であれば、リスニング位置が部屋の左右中心線上来るように、またラウドスピーカーが部屋の中心線から同じ距離になるようにシステムを配置してください。

反響を最小限に抑える

デスク、キャビネット、コンピューターモニターなど、ラウドスピーカー周辺の物体からの音の反射はサウンドイメージへの不要なばやけの原因となります。これは、反響面からラウドスピーカーを離して設置することで最小限に抑えることができます。たとえば、スタンドを使用してラウドスピーカー

をミキシングコンソールの前と後に配置すると、メーターブリッジ上に配置する場合よりも優れた結果が得られます。

最小隙間

モニターがキャビネットのような閉鎖された空間や壁内部に埋め込む形で取り付けられる場合、アンプが十分に冷却され、リフレックスポートが正しく機能するようになります。ラウドスピーカーの背後、上、両側には、少なくとも 5cm の間隔を空けてください。アンプ周辺の空間では、環境温度が 35 度を超えないよう換気をするまたは十分な空間を取る必要があります。

取付オプション

8030C はいくつかの取付オプションを提供しています。Iso-Pod™ (Isolation Positioner/Decoupler™) 防振テーブルスタンドを使用すると、リスナーに向けてラウドスピーカーに角度をつけることができ、ラウドスピーカーを音響軸上に正しく配置できます。このスタンドは 3 つのネジ穴に取り付けることができ、縦置きでも横置きでも使用できます。また、ラウドスピーカー底面には、標準的なマイクスタンドに対応する 3/8 インチ UNC ネジ穴があります。背面には、Omnimount® サイズ 20.5 ブラケット用の 2 つの M6x10 mm ネジ穴があります。

メンテナンス

アンブレユニット内部にオーナー自身で点検修理が可能な部分はありません。8030C の保守や修理は Genelec 認定サービスセンターのみ実施可能です。

安全性についての検討事項

8030C は国際安全基準に準拠するようデザインされていますが、安全な動作を確保し、ラウドスピーカーを安全な動作条件下に保つため、以下の警告と注意を順守する必要があります。

- 保守および修理を認定サービス以外の者が実施してはいけません。ラウドスピーカーエンクロージャを解体してはいけません。
- アースのない電源ケーブルを用いて本製品を使用してはいけません。人身傷害の原因となることがあります。
- ラウドスピーカーを水または湿気に曝さないでください。花ピンなど液体で満たされた物体をラウドスピーカーの上や付近に置かないでください。
- このラウドスピーカーは 85 dB を上回る音圧レベルを生成できますが、このレベルは聴覚に恒久的な損傷を与える場合があります。
- 十分な冷却を保つため、ラウドスピーカーの背後で空気が対流している必要があります。ラウドスピーカー周辺の空気の流れを遮らないようにしてください。
- アンプは主電源コードがアンプまたは電源コンセントから取り外されていないければ AC 電源から完全に接続解除されません。

保証

本製品は、材料または製造上の瑕疵および不具合に関して 2 年間保証されています。販売条件および保証条件について詳しくは販売店にお問い合わせください。www.genelec.jp/customer-service/ よりモニターをご登録ください。これにより 3 年の延長保証（トータル 5 年保証）が受けられます。

FCC規則への準拠

本製品は、FCC 規則のパート 15 に準拠しています。動作は次の条件に基づきます。

本機器が有害な妨害の原因とならないこと、および本機器が不要な動作の原因となる妨害を含むあらゆる妨害を受信すること。

注：本装置は、テストの結果 FCC 規則のパート 15 に従い、クラス B のデジタルデバイスの制限を遵守していることが確認されています。これらの制限は、住宅に設置するにあたり有害な妨害に対する適切な保護を提供することを目的としています。本装置は無線周波エネルギーを発生、使用、放射しており、指示に従わずに設置または使用された場合、無線通信への有害な妨害の原因となる場合があります。ただし、特定の場所に設置することによって妨害が発生しないという保証はありません。本装置がラジオやテレビの受信の有害な妨害の原因となる場合は（装置電源をオン・オフすることでご確認いただけます）、以下の対策を 1 つ以上行って妨害を正すことをおすすめします。

受信アンテナの向きまたは場所を変更する。

装置と受信機の距離をさらに空ける。

受信機が接続されているコンセントとは別のコンセントに装置を接続する。

取扱店または経験豊富なラジオ技術者またはテレビ技術者に相談する。

製造者によって明示的に許可されていない変更を行うと、装置を操作する権限が無効になる場合があります。

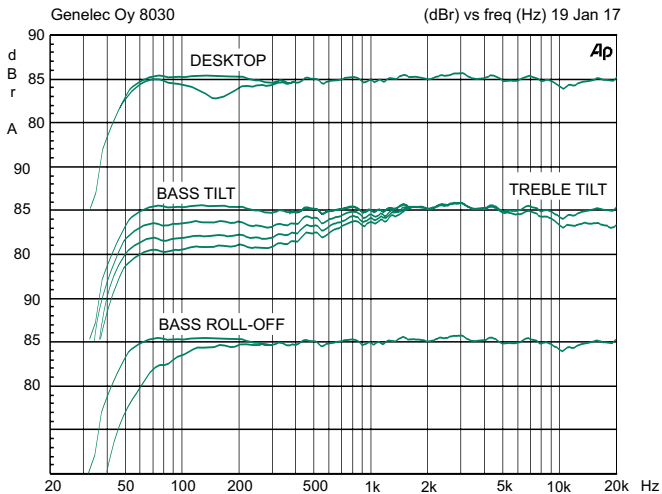


図 4：上図のカーブは 8030C の空間応答への [Bass Tilt]、[Treble Tilt]、[Bass Roll-Off] の各コントロールの影響を示している

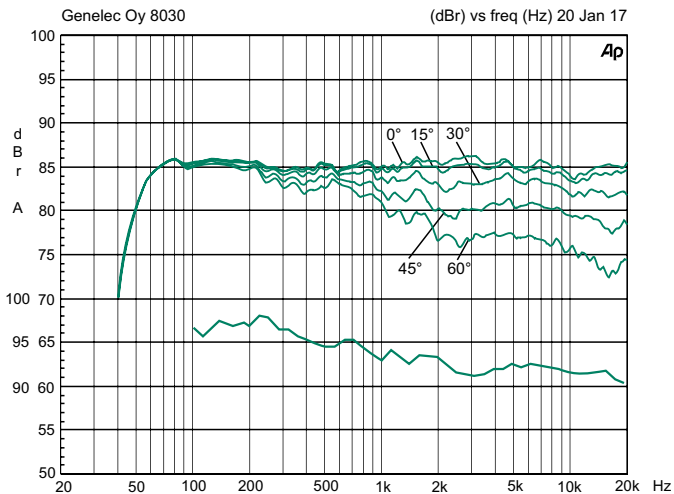


図 5：上のカーブは 8030C 横置き 1 m 計測時の方向性特性を示している。下のカーブはシステムの電力感度を示している

システム仕様

低域カットオフ周波数、-6 dB ≤ 47 Hz

高域カットオフ周波数、-6 dB ≥ 25 kHz

周波数特性の精度 54 Hz ~ 20 kHz (± 2.0 dB)

瞬間最大音圧レベル、軸上、半空間、100 Hz ~ 3 kHz
@ 1 m ≥ 104 dB SPL

RMS 最大音圧レベル、IEC 特性ノイズと同条件 (ドライバユニット保護回路による制限)
@ 1 m ≥ 96 dB SPL

ペア毎の最大ピーク音圧レベル、@ 1 m ≥ 110 dB

残留ノイズレベル、フリー空間、軸上、@ 1 m
 ≤ 5 dB (A 特性)

高調波歪み、85 dB SPL、軸上、@ 1 m
50 ~ 200 Hz $< 2\%$
> 100 Hz $< 0.5\%$

ドライバークーファ
ツイーター 130 mm コーン
19 mm (3/4 インチ)、メタルドーム

質量 5.0 kg

外寸高さ 299 mm
(Iso-Pod™ テーブルスタンドを含む)

高さ 285 mm
(Iso-Pod™ テーブルスタンドを含まない)

高さ 189 mm
奥行き 178 mm

クロスオーバーセクション

入力端子 入力: XLR メス、バランス、10 k Ω
ピン 1 gnd、ピン 2 +、ピン 3 -

入力レベル (100 dB SPL 出力 @ 1 m) -6 dBu

最大出力相対入力感度コントロール範囲 -12 dB (常時可変)

クロスオーバー周波数、ウーファー / ツイーター 3.0 kHz

トレブルチルトコントロール動作範囲 0 ~ -2 dB @ 15 kHz

ベースロールオフコントロール -4 dB 単位 @ 55 Hz

ベースチルトコントロール動作範囲 (-2 dB 単位)
0 ~ -6 dB @ 100 Hz

デスクトップコントロール -4 dB @ 160 Hz

[CAL] 位置は全てのトーンコントロールが [OFF] に、入力感度コントロールが最大 (完全右) に設定されている状態

アンプセクション

ベースアンプ出力 50 W
トレブルアンプ出力 50 W

長時間出力はドライバークーファ保護回路により制限。

アンプシステム歪み (通常出力時)
THD $\leq 0.05\%$

主電源 100 ~ 240 V AC 50 ~ 60 Hz

電圧動作範囲 $\pm 10\%$

消費電力
待機 3 W
ISS モード時スタンバイ < 0.5 W
フル出力 60 W

GENELEC®

株式会社ジェネレックジャパン

<本社>
107-0052
東京都港区赤坂二丁目22番21号
電話番号:03-6441-0591

<長野オフィス>
381-0201
長野県上高井郡小布施町小布施1497-2

修理お問い合わせ先

<ジェネレックサービスセンター>
電話番号:050-3786-1236
平日10:00～18:00
(夏季/年末年始休業を除く)

修理のご依頼は、お電話または修理依頼フォームがご利用いただけます。修理依頼フォームは、Web サイトのカスタマー・サービス内にご用意しております。

www.genelec.jp/customer-service/

www.genelec.jp

Genelec ドキュメント D0036R001JPV3 Copyright Genelec Oyおよび株式会社ジェネレックジャパン 2019年12月
全てのデータは予告なく変更する場合があります。